分野	専門分野	配当時期	1 年　前期	講義担当者
教育内容	救急医学概論	単位数	1 単位	稲富　健
科目名	病院前医療概論Ⅰ	時間数	15 時間 8 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例、災害対応事例等を踏まえながら講義を行う。

科目概要

病院前医療概論Ⅰでは、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、我が国の救急医療体制、災害医療体制、消防機関における救急活動、メディカルコントロール体制等について学修する。また、病院前救護における救急救命士の役割および多職種連携について理解を深め、救急現場において必要となる基礎的知識を修得する。

授業目標

1　わが国の救急医療体制および消防機関における救急業務の概要を説明することができる。
2　病院前救護における救急救命士の役割と責任について理解することができる。
3　メディカルコントロール体制の目的と仕組みについて説明することができる。
4　災害医療体制および多数傷病者対応の基礎を理解することができる。
5　救急救命士として求められる倫理観・接遇・社会的責任について理解し、主体的に学修することができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
		2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	病院前医療の概要 ・病院前医療の定義 ・救急医療の歴史 ・救急救命士制度の概要	講義	
2	日本の救急医療体制 ・一次～三次救急医療機関 ・救急搬送体制 ・消防機関の役割	講義	
3	救急救命士の役割 ・救急隊活動 ・救急救命処置 ・医療機関との連携	講義	
4	メディカルコントロール（MC） ・メディカルコントロール体制の目的 ・オンラインMC ・事後検証	講義	
5	災害医療体制 ・災害医療の概要 ・DMAT ・災害時の救急活動	講義	

6	多数傷病者対応 ・多数傷病者発生時の対応 ・トリアージの基本 ・現場における安全管理	講義 演習	
7	多職種連携と地域包括ケア ・医療・福祉との連携 ・地域包括ケア ・行政機関との協働	講義 GW	
8	救急救命士の倫理とまとめ ・守秘義務 ・接遇 ・救急救命士の倫理	講義	

受講上の注意

講義内容については、救急医療に関するニュースや社会情勢にも関心を持ちながら主体的に学修すること。

評価方法

筆記テスト 80%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%

使用するテキスト

『救急救命士標準テキスト』　へるす出版

参考文献

総務省消防庁「救急業務実施基準」　厚生労働省「救急医療体制について」　他

分野	専門分野	配当時期	1 年　後期	講義担当者
教育内容	救急医学概論	単位数	1 単位	稲富　健
科目名	病院前医療概論Ⅱ	時間数	15 時間 8 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例、災害対応事例等を踏まえながら講義を行う。

科目概要

病院前医療概論Ⅱでは、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、救急現場における安全管理、感染対策、搬送管理、通信指令、災害対応等について学修する。

また、病院前救護活動に必要な観察力、判断力、情報共有、チーム活動の重要性について理解を深め、救急救命士として必要な基礎的実践能力を養う。

授業目標

1　救急現場における安全管理および感染対策について理解することができる。
2　救急活動における通信指令、情報伝達および搬送管理について説明することができる。
3　災害時における救急活動および関係機関との連携について理解することができる。
4　病院前救護における観察、判断およびチーム活動の重要性について理解することができる。
5　救急救命士として求められる責任感、倫理観および主体的な学修姿勢を身につけることができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	救急活動における安全管理 ・現場安全管理 ・二次災害防止 ・交通事故現場における安全対策	講義	
2	感染対策と標準予防策 ・感染経路 ・標準予防策 ・個人防護具（PPE）	講義	
3	通信指令と情報伝達 ・119 番通報　・ 活動記録 ・通信指令業務 ・医療機関への情報伝達	講義	
4	搬送管理 ・傷病者搬送 ・救急車内活動 ・搬送時の観察	講義	

5	災害時の救急活動 ・災害時の救急活動 ・避難所における活動 ・関係機関との連携	講義	
6	救急活動における関係機関との連携 ・消防・警察との連携 ・医療機関との連携 ・行政機関との協働	講義 GW	
7	救急隊活動とチームワーク ・役割分担 ・情報共有 ・活動記録 ・医療安全	講義 演習	
8	病院前救護活動の総括 ・救急活動の流れ ・観察から搬送までの流れ ・情報共有 ・救急救命士法	講義	

受講上の注意
講義内容については、救急医療に関するニュースや社会情勢にも関心を持ちながら主体的に学修すること。
評価方法
筆記テスト 80%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　厚生労働省「救急医療体制について」　他

分野	専門分野	配当時期	3 年　後期	講義担当者
教育内容	救急症候病態生理学	単位数	2 単位	南　弘喜 山﨑　光子 本吉　研一
科目名	総合救急病態生理学	時間数	60 時間 30 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急搬送事例を踏まえながら、病院前救護における観察、病態把握、重症度判断および初期対応について講義・演習を行う。

科目概要

総合救急病態生理学では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、これまでに学修した解剖学、生理学、疾病救急医学、病院前医療概論等の知識を統合しながら、病院前救護において遭遇する内因性疾患について学修する。

また、実際の救急搬送事例、症例検討、過去問題演習等を通して、観察、病態把握、重症度判断および初期対応について理解を深め、国家試験および実際の救急活動に必要な総合的判断力を養う。

授業目標

1　これまでに学修した基礎医学および救急医学の知識を統合して理解することができる。
2　病院前救護において遭遇する主な内因性疾患の病態生理について説明することができる。
3　傷病者の症候から病態を推測し、適切な観察および初期対応について判断することができる。
4　症例検討および過去問題演習を通して、国家試験に必要な知識および思考力を身につけることができる。
5　救急救命士として必要な判断力、対応力、倫理観および主体的学習姿勢を身につけることができる。

DPとの関連		
	◎	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	総合救急病態生理学の概要 ・本科目の目的 ・国家試験対策 ・病態把握の重要性	講義	
2	救急活動における観察 ・初期観察 ・重症度判断 ・情報収集	講義 演習	
3	呼吸障害① ・呼吸困難 ・低酸素状態 ・換気障害	講義	

4	呼吸障害② ・喘息 ・COPD ・過換気症候群	講義 演習	
5	循環障害① ・胸痛 ・ショック ・循環不全	講義	
6	循環障害② ・急性冠症候群 ・心不全 ・不整脈	講義 演習	
7	意識障害① ・意識レベル評価 ・失神 ・脳循環障害	講義	
8	意識障害② ・脳卒中 ・けいれん ・頭蓋内病変	講義 演習	
9	内分泌・代謝障害① ・低血糖 ・高血糖 ・脱水	講義	
10	内分泌・代謝障害② ・糖尿病性昏睡 ・電解質異常 ・代謝異常	講義 演習	
11	消化器障害① ・腹痛 ・消化管出血 ・急性腹症	講義	
12	消化器障害② ・肝胆膵疾患 ・嘔吐 ・下痢	講義 演習	
13	感染症① ・発熱 ・敗血症 ・感染徴候	講義	
14	感染症② ・感染対策 ・感染経路 ・救急活動時の対応	講義 演習	

15	環境障害① ・熱中症 ・低体温症 ・脱水	講義	
16	環境障害② ・溺水 ・感電 ・中毒	講義 演習	
17	小児救急① ・小児の特徴 ・発熱 ・けいれん	講義	
18	小児救急② ・呼吸障害 ・脱水 ・観察時の注意	講義 演習	
19	高齢者救急① ・高齢者の特徴 ・転倒 ・誤嚥	講義	
20	高齢者救急② ・認知機能低下 ・基礎疾患 ・搬送時の注意	講義 演習	
21	症例検討① ・症候からの病態把握 ・観察 ・重症度判断	演習	
22	症例検討② ・初期対応 ・情報共有 ・活動記録	演習	
23	過去問題演習① ・呼吸障害 ・循環障害 ・意識障害	演習	
24	過去問題演習② ・代謝障害 ・消化器障害 ・感染症	演習	
25	過去問題演習③ ・環境障害 ・小児救急 ・高齢者救急	演習	

26	総合演習① ・観察 ・病態把握 ・重症度判断	演習	
27	総合演習② ・初期対応 ・情報共有 ・活動判断	演習	
28	国家試験対策① ・重要項目整理 ・頻出問題演習 ・弱点分析	演習	
29	国家試験対策② ・総合問題演習 ・病態生理 ・解答解説	演習	
30	総合救急病態生理学の総括 ・学習内容の振り返り ・総合確認 ・国家試験への課題整理	講義 演習	

受講上の注意

授業には主体的に参加し、症例検討、グループ討議および過去問題演習を通して、自ら考え判断する姿勢を身につけること。

評価方法

筆記試験 60%　演習・過去問 20%　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%

使用するテキスト

『救急救命士標準テキスト』　へるす出版

参考文献

総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医療財団「救急蘇生法の指針」　他

分野	専門分野	配当時期	3 年　後期	講義担当者
教育内容	外傷救急医学	単位数	2 単位	南　弘喜 山﨑　光子 本吉　研一
科目名	総合外傷救急医学	時間数	60 時間 30 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の外傷救急活動事例を踏まえながら、病院前救護における観察、重症度判断、外傷対応および搬送管理について講義・演習を行う。

科目概要

総合救急病態生理学では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、これまでに学修した外傷処置、呼吸・循環管理、病院前医療概論等の知識を統合しながら、病院前救護において遭遇する外傷傷病者について学修する。

また、実際の救急搬送事例、症例検討、過去問題演習等を通して、外傷現場における観察、重症度判断、初期対応および搬送管理について理解を深め、国家試験および実際の救急活動に必要な総合的判断力を養う。

授業目標

1　これまでに学修した基礎医学および救急医学の知識を統合して理解することができる。
2　病院前救護において遭遇する主な外傷の病態および重症度判断について説明することができる。
3　外傷傷病者に対する観察、初期対応および搬送管理について適切に判断することができる。
4　症例検討および過去問題演習を通して、国家試験に必要な知識および思考力を身につけることができる。
5　救急救命士として必要な判断力、対応力、倫理観および主体的学習姿勢を身につけることができる。

DPとの関連		
	◎	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	総合外傷救急医学の概要 ・本科目の目的 ・国家試験対策 ・病態把握の重要性	講義	
2	外傷観察の基本 ・初期観察 ・全身観察 ・重症度判断	講義 演習	
3	頭部外傷① ・頭部外傷の病態 ・意識障害 ・頭蓋骨内損傷	講義	

4	頭部外傷② ・観察ポイント ・重症度判断 ・初期対応	講義 演習	
5	顔面・頸部外傷① ・顔面損傷 ・頸部損傷 ・気道障害	講義	
6	顔面・頸部外傷② ・頸椎保護 ・観察 ・搬送時の注意点	講義 演習	
7	胸部外傷① ・胸部損傷 ・呼吸障害 ・循環障害	講義	
8	胸部外傷② ・緊張性気胸 ・フレイルチェスト ・初期対応	講義 演習	
9	腹部外傷① ・腹部損傷 ・出血性ショック ・内臓損傷	講義	
10	腹部外傷② ・観察ポイント ・重症度判断 ・搬送管理	講義 演習	
11	脊椎・脊髄損傷① ・脊椎損傷 ・脊髄損傷 ・神経障害	講義	
12	脊椎・脊髄損傷② ・頸椎固定 ・全身固定 ・搬送時の注意点	講義 演習	
13	四肢外傷① ・骨折 ・脱臼 ・軟部組織損傷	講義	
14	四肢外傷② ・止血法 ・固定法 ・観察	講義 演習	

15	熱傷① ・熱傷の分類 ・熱傷面積 ・熱傷病態	講義	
16	熱傷② ・熱傷時の観察 ・初期対応 ・感染対策	講義 演習	
17	多発外傷① ・多発外傷の特徴 ・重症度判断 ・優先順位	講義	
18	多発外傷② ・全身管理 ・搬送判断 ・情報共有	講義 演習	
19	外傷現場活動① ・現場安全確認 ・活動手順 ・役割分担	講義	
20	外傷現場活動② ・情報共有 ・チーム医療 ・医療機関連携	演習	
21	症例検討① ・外傷観察 ・病態把握 ・重症度判断	演習	
22	症例検討② ・初期対応 ・搬送管理 ・活動記録	演習	
23	過去問題演習① ・頭部外傷 ・胸部外傷 ・腹部外傷	演習	
24	過去問題演習② ・脊椎損傷 ・四肢外傷 ・熱傷	演習	
25	過去問題演習③ ・多発外傷 ・外傷現場活動 ・重症度判断	演習	

26	総合演習① ・観察 ・病態把握 ・重症度判断	演習	
27	総合演習② ・初期対応 ・情報共有 ・活動判断	演習	
28	国家試験対策① ・重要項目整理 ・頻出問題演習 ・弱点分析	演習	
29	国家試験対策② ・総合問題演習 ・病態生理 ・解答解説	演習	
30	総合救急病態生理学の総括 ・学習内容の振り返り ・総合確認 ・国家試験への課題整理	講義 演習	

受講上の注意
授業には主体的に参加し、症例検討、グループ討議および過去問題演習を通して、自ら考え判断する姿勢を身につけること。
評価方法
筆記試験 60%　演習・過去問 20%　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医療財団「救急蘇生法の指針」　他

分野	専門分野	配当時期	1 年　前期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	稲富　健
科目名	一次救命処置	時間数	45 時間 23 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例を踏まえながら、一次救命処置に必要な知識および技術について講義・演習を行う。

科目概要

一次救命処置では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、心肺停止傷病者に対する一次救命処置（BLS）について学修する。

胸骨圧迫、人工呼吸、自動体外式除細動器（AED）の使用方法、気道異物除去等について理解するとともに、救急現場を想定した演習を通して、迅速かつ安全に一次救命処置を実施するための基礎的能力を養う。

授業目標

1　一次救命処置の目的および重要性について理解することができる。
2　心肺停止傷病者に対する胸骨圧迫、人工呼吸およびAEDの使用方法について説明することができる。
3　気道異物除去および体位管理について理解することができる。
4　救急現場を想定した一次救命処置を安全かつ適切に実施することができる。
5　救急救命士として必要な観察力、判断力およびチーム活動の重要性について理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	一次救命処置の概要 ・一次救命処置の目的 ・救命の連鎖 ・心肺停止への対応	講義	
2	心肺蘇生法の基礎 ・意識確認 ・呼吸確認 ・応援要請	講義 演習	
3	胸骨圧迫① ・胸骨圧迫の目的 ・圧迫部位 ・圧迫の深さ	演習	
4	胸骨圧迫② ・胸骨圧迫のテンポ ・圧迫の継続 ・質の高い胸骨圧迫	演習	

5	胸骨圧迫③ ・胸骨圧迫の交代方法 ・疲労対策 ・チームによる胸骨圧迫	演習	
6	気道確保 ・気道確保の目的 ・頭部後屈あご先挙上法 ・下顎挙上法	講義 演習	
7	人工呼吸① ・人工呼吸の目的 ・感染対策 ・人工呼吸の方法	演習	
8	人工呼吸② ・バッグバルブマスクの使用方法 ・換気時の観察	演習	
9	AED の概要 ・AED の目的 ・電気ショック ・安全管理	講義	
10	AED 操作① ・AED の操作手順 ・電極パッド装着 ・安全確認	演習	
11	AED 操作② ・心肺蘇生との連携 ・チームによる AED 活動	演習	
12	気道異物除去① ・窒息の原因 ・窒息の判断	講義 演習	
13	気道異物除去② ・異物除去法 ・安全な対応方法	演習	
14	体位管理 ・回復体位 ・搬送時の体位管理	講義 演習	
15	小児への一次救命処置 ・小児 BLS ・小児への対応方法	講義 演習	
16	乳児への一次救命処置 ・乳児 BLS ・乳児への対応方法	講義 演習	
17	救急現場における観察 ・傷病者観察 ・全身観察 ・情報収集	講義 演習	
18	救急活動における安全管理 ・現場安全管理 ・感染防止対策 ・医療安全	講義	
19	救急活動における情報共有 ・情報伝達 ・活動記録 ・医療機関への申し送り	講義 演習	

20	チーム活動① ・役割分担 ・コミュニケーション ・チーム活動	演習	
21	チーム活動② ・連携活動 ・救急隊活動の実践	演習	
22	総合演習 ・心肺停止傷病者への対応 ・現場想定訓練	実技	
23	一次救命処置の総括 ・実技確認 ・振り返り ・まとめ	演習	

受講上の注意
実技・演習時には、指定された実習着を着用し、安全管理に留意しながら積極的に授業へ参加すること。
評価方法
実技試験 50%　筆記試験 30%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医療財団「救急蘇生法の指針」　他

分野	専門分野	配当時期	1 年　後期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	本吉　研一
科目名	呼吸・循環管理	時間数	45 時間 23 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例を踏まえながら、呼吸・循環管理に必要な知識および技術について講義・演習を行う。

科目概要

呼吸・循環管理では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、呼吸および循環に関する基礎知識、観察方法、病態把握、呼吸管理および循環管理について学修する。

また、病院前救護において必要となる酸素投与、バッグバルブマスク喚起、心電図モニタリング等の基本的知識・技術を理解するとともに、救急現場を想定した実技・演習を通して、適切な判断力および対応能力を養う。

授業目標

1　呼吸および循環の基礎的な解剖・生理について理解することができる。
2　呼吸状態および循環状態の観察と評価について説明することができる。
3　酸素投与、換気補助および循環管理に関する基礎的技術を理解することができる。
4　病院前救護において必要な呼吸・循環管理を安全かつ適切に実施することができる。
5　救急活動における観察力、判断力およびチーム活動の重要性について理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	呼吸・循環管理の概要 ・呼吸管理の目的 ・循環管理の目的 ・病院前救護における役割	講義	
2	呼吸器の構造と機能 ・気道の構造 ・肺の構造 ・換気とガス交換	講義	
3	循環器の構造と機能 ・心臓の構造 ・血液循環 ・血圧の調節	講義	
4	呼吸状態の観察 ・呼吸数 ・呼吸音 ・SpO_2測定	講義 演習	

5	循環状態の観察 ・脈拍測定 ・血圧測定 ・皮膚観察	講義 演習	
6	酸素療法① ・酸素投与の目的 ・酸素ボンベの取扱い	講義 実技	
7	酸素療法② ・酸素投与器具 ・安全管理	実技	
8	気道管理① ・気道確保 ・用手的気道確保	講義 実技	
9	気道管理② ・吸引法 ・吸引時の注意点	講義	
10	換気管理① ・バッグバルブマスク換気	実技	
11	換気管理② ・換気時の観察 ・換気量の評価	実技 演習	
12	心電図モニタリング① ・モニター心電図の概要 ・電極装着	講義 実技	
13	心電図モニタリング② ・基本波形 ・不整脈の基礎	講義	
14	ショックの病態 ・ショックの種類 ・循環不全	講義	
15	呼吸困難への対応 ・呼吸困難の観察 ・初期対応	講義 演習	
16	胸痛への対応 ・胸痛の観察 ・循環評価	講義	
17	意識障害への対応 ・意識レベル評価 ・観察項目	講義 演習	
18	救急活動における安全管理 ・感染対策 ・医療安全 ・現場医療安全	講義	
19	情報共有と活動記録 ・申し送り ・活動記録 ・情報共有	演習	
20	チーム活動① ・役割分担 ・コミュニケーション ・チーム活動	演習	

21	チーム活動② ・連携活動 ・救急隊活動の実践	演習	
22	総合実技演習 ・呼吸・循環管理の実践 ・現場想定訓練	実技 演習	
23	呼吸・循環管理の総括 ・呼吸・循環管理の実践確認 ・観察と判断の振り返り ・チーム活動の振り返り	実技 演習	

受講上の注意
実技・演習時には、指定された実習着を着用し、安全管理に留意しながら積極的に授業へ参加すること。
評価方法
実技試験 50%　筆記試験 30%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医学会関連資料　他

分野	専門分野	配当時期	1 年　後期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	稲富　健
科目名	外傷処置	時間数	45 時間 23 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例を踏まえながら、外傷処置に必要な知識および技術について講義・実技・演習を行う。

科目概要

外傷処置では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、外傷傷病者に対する観察、評価、止血、固定、搬送等について学修する。

また、病院前救護において必要となる外傷初期対応、全身観察、重症度判断および安全管理について理解するとともに、実技・演習を通して、迅速かつ適切な外傷対応能力を養う。

授業目標

1　外傷の種類および病態について理解することができる。
2　外傷傷病者に対する観察および重症度判断について説明することができる。
3　止血法、固定法および搬送法について理解し、安全に実施することができる。
4　病院前救護における外傷初期対応について理解し、適切に対応することができる。
5　救急活動における観察力、判断力およびチーム活動の重要性について理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	外傷処置の概要 ・外傷処置の目的 ・病院前救護における外傷対応 ・外傷処置時の基本姿勢	講義	
2	外傷の種類と病態 ・鈍的外傷 ・鋭的外傷 ・熱傷	講義	
3	外傷現場における安全管理 ・現場安全確認 ・二次災害防止 ・感染対策	講義	
4	外傷傷病者の観察① ・全身観察 ・意識レベル評価 ・外傷部位の確認	講義 演習	

5	外傷傷病者の観察② ・バイタルサイン測定 ・重症度判断 ・ショックの観察	講義 演習	
6	出血と止血① ・出血の種類 ・直接圧迫止血法 ・止血時の観察	講義 実技	
7	出血と止血② ・止血処置の実践 ・止血後の観察 ・感染防止対策	実技	
8	包帯法① ・包帯法の基本 ・三角巾の使用方法 ・固定時の観察	実技	
9	包帯法② ・部位別包帯法 ・副子固定 ・固定時の安全管理	実技	
10	骨折総論 ・骨折の種類 ・骨折時の症状 ・骨折時の初期対応	講義	
11	骨折の固定① ・上肢固定法 ・副子の使用方法 ・固定後の観察	実技	
12	骨折の固定② ・下肢固定法 ・全身固定法 ・固定時の安全管理	実技	
13	脊椎損傷への対応 ・脊椎損傷の観察 ・頸椎保護 ・体位管理	講義 実技	
14	頭部外傷への対応 ・頭部外傷の観察 ・意識障害への対応 ・搬送時の注意	講義 演習	
15	胸部外傷への対応 ・呼吸状態の観察 ・胸部外傷の特徴 ・呼吸管理	講義	
16	腹部外傷への対応 ・腹部外傷の観察 ・ショックへの対応 ・全身管理	講義	
17	熱傷への対応 ・熱傷の分類 ・熱傷時の観察 ・熱傷時の処置	講義 演習	

18	搬送法① ・徒手搬送 ・担架搬送 ・安全な搬送方法	実技	
19	搬送法② ・階段搬送 ・狭所搬送 ・搬送時の連携	実技	
20	救急活動における情報共有 ・活動記録 ・医療機関への申し送り ・情報共有	演習	
21	チーム活動 ・役割分担 ・連携活動 ・コミュニケーション	演習	
22	総合実技演習 ・外傷傷病者への対応 ・現場想定訓練 ・安全管理	実技 演習	
23	外傷処置の総括 ・外傷処置の実践確認 ・観察と判断の振り返り ・チーム活動の振り返り	実技 演習	

受講上の注意
実技・演習時には、指定された実習着を着用し、安全管理に留意しながら積極的に授業へ参加すること。
評価方法
実技試験 50%　筆記試験 30%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本外傷学会関連資料　他

分野	専門分野	配当時期	1 年　後期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	本吉　研一
科目名	気管挿管	時間数	45 時間 23 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例を踏まえながら、気管挿管に必要な知識および技術について講義・実技・演習を行う。

科目概要

気管挿管では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、気管挿管必要な解剖・生理、気管挿管の適応、手順、安全管理等について学修する。
また、病院前救護において必要となる気道確保、換気管理および観察について理解するとともに、実技・演習を通して、安全かつ適切な気管挿管技術および判断力を養う。

授業目標

1　気道の解剖・生理および気管挿管の目的について理解することができる。
2　気管挿管の適応、禁忌および合併症について説明することができる。
3　気道確保および換気管理について理解し、適切に実施することができる。
4　病院前救護において必要な気管挿管手技を安全に実施することができる。
5　救急活動における観察力、判断力およびチーム活動の重要性について理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	気管挿管の概要 ・気管挿管の目的 ・病院前救護における役割 ・安全管理	講義	
2	気道の解剖と生理 ・上気道の構造 ・下気道の構造 ・換気の仕組み	講義	
3	気道評価 ・気道観察 ・換気状態の確認 ・気道閉塞の判断	講義 演習	
4	気道確保① ・頭部後屈あご先挙上法 ・下顎挙上法 ・吸引法	実技	

5	気道確保② ・エアウェイの使用方法 ・バッグバルブマスク換気 ・換気時の観察	実技	
6	気管挿管の適応と禁忌 ・適応 ・禁忌 ・合併症	講義	
7	気管挿管器具① ・喉頭鏡 ・気管チューブ ・スタイレット	講義 実技	
8	気管挿管器具② ・器具準備 ・器具管理 ・感染防止対策	実技	
9	気管挿管手技① ・体位 ・喉頭展開 ・声門確認	実技	
10	気管挿管手技② ・チューブ挿入 ・固定方法 ・換気確認	実技	
11	気管挿管手技③ ・挿管時の観察 ・安全管理 ・感染防止対策	実技	
12	気管挿管手技④ ・手技の反復 ・手順確認 ・総合実践	実技	
13	換気管理① ・酸素投与 ・換気状態の評価 ・SpO_2測定	講義 実技	
14	換気管理② ・胸部運動の観察 ・呼吸音聴取 ・換気量の評価	実技	
15	心肺停止傷病者への対応 ・心肺停止時の気道管理 ・胸骨圧迫との連携 ・AED との連携	講義 演習	
16	外傷傷病者への対応 ・頸椎保護 ・外傷時の気道管理 ・安全管理	講義 実技	
17	小児・乳児への対応 ・小児の気道特徴 ・乳児への対応 ・観察時の注意点	講義	

18	救急現場における観察 ・全身観察 ・バイタルサイン ・情報収集	講義 演習	
19	救急活動における情報共有 ・申し送り ・活動記録 ・医療機関との連携	演習	
20	総合実技演習 ・気管挿管の実践 ・換気管理 ・現場想定訓練	実技 演習	
21	チーム活動① ・役割分担 ・コミュニケーション ・安全管理	演習	
22	チーム活動② ・連携活動 ・救急隊活動 ・医療安全	実技 演習	
23	気管挿管の総括 ・気管挿管手技の確認 ・観察と判断の振り返り ・チーム活動の振り返り	実技 演習	

受講上の注意
実技・演習時には、指定された実習着を着用し、安全管理に留意しながら積極的に授業へ参加すること。
評価方法
実技試験 50%　筆記試験 30%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医学会関連資料　他

分野	専門分野	配当時期	2 年　前期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1 単位	白河　里菜
科目名	静脈路確保	時間数	45 時間 23 回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例を踏まえながら、静脈路確保に必要な知識および技術について講義・実技・演習を行う。

科目概要

静脈路確保では、救急救命士国家試験出題基準（ブループリント）に準拠し、循環管理に必要な解剖・生理、静脈路確保の目的、適応、安全管理等について学修する。

また、病院前救護において必要となる観察、感染防止対策、輸液管理および静脈路確保手技について理解するとともに、実技・演習を通して、安全かつ適切な処置能力および判断力を養う。

授業目標

1　循環に関する基礎的な解剖・生理および静脈路確保の目的について理解することができる。
2　静脈路確保の適応、禁忌および合併症について説明することができる。
3　感染防止対策および安全管理について理解し、適切に実施することができる。
4　病院前救護において必要な静脈路確保手技を安全かつ適切に実施することができる。
5　救急活動における観察力、判断力およびチーム活動の重要性について理解することができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	○	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	静脈路確保の概要 ・静脈路確保の目的 ・病院前救護における役割 ・安全管理	講義	
2	循環器の構造と機能 ・血管の構造 ・血液循環 ・循環管理	講義	
3	静脈の解剖 ・上肢静脈 ・穿刺部位 ・血管走行	講義	
4	静脈路確保の適応と禁忌 ・適応 ・禁忌 ・合併症	講義	

5	感染防止対策① ・標準予防策 ・手指衛生 ・感染経路	講義 演習	
6	感染防止対策② ・個人防護具（PPE） ・器材管理 ・安全確認	講義 演習	
7	使用器材① ・留置針 ・輸液セット ・駆血帯	講義	
8	使用器材② ・器材準備 ・器材管理 ・輸液器材の取扱い	講義 演習	
9	穿刺手技① ・穿刺部位の選択 ・皮膚消毒 ・穿刺角度	実技	
10	穿刺手技② ・血液逆流確認 ・留置操作 ・固定方法	実技	
11	輸液管理① ・輸液の目的 ・輸液速度 ・輸液時の観察	講義 演習	
12	輸液管理② ・輸液量管理 ・滴下確認 ・循環状態の評価	講義 演習	
13	ショックへの対応① ・ショックの病態 ・循環不全 ・初期対応	講義	
14	ショックへの対応② ・ショック時の観察 ・輸液管理 ・安全管理	講義 演習	
15	心肺停止傷病者への対応① ・心肺停止時の静脈路確保 ・CPR との連携 ・観察	講義 演習	
16	心肺停止傷病者への対応② ・救急活動時の役割分担 ・情報共有 ・チーム活動	演習	
17	外傷傷病者への対応① ・外傷時の循環管理 ・ショック対応 ・安全管理	講義 演習	

18	外傷傷病者への対応② ・観察と判断 ・輸液時の注意点 ・搬送時の管理	演習	
19	高齢者・小児への対応① ・高齢者の特徴 ・小児の特徴 ・観察時の注意点	講義	
20	高齢者・小児への対応② ・穿刺時の注意点 ・安全管理 ・感染防止対策	演習	
21	チーム活動① ・役割分担 ・コミュニケーション ・安全確認	演習	
22	チーム活動② ・連携活動 ・救急隊活動 ・医療安全	実技 演習	
23	静脈路確保の総括 ・静脈路確保手技の確認 ・観察と判断の振り返り ・チーム活動の振り返り	実技 演習	

受講上の注意
実技・演習時には、指定された実習着を着用し、安全管理に留意しながら積極的に授業へ参加すること。
評価方法
実技試験 50%　筆記試験 30%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医学会関連資料　他

分野	専門分野	配当時期	2年　前期	講義担当者
教育内容	臨地実習	単位数	1単位	本吉　研一
科目名	救急車同乗実習	時間数	45時間23回	

【 実務経験のある教員による授業科目 】

消防本部において救急救命士として救急業務に従事した経験を有する教員が、実際の救急活動事例を踏まえながら、救急車内活動、情報共有、観察および救急処置について実践的指導を行う。

科目概要

救急車同乗実習では、本校所有の実習用救急車を活用し、実際の救急活動を想定した車内活動、観察、情報共有、救急処置等について学修する。

また、実走行環境を想定した実践的演習を通して、救急現場に必要な判断力、対応力およびチーム活動について理解を深める。さらに、看護学生との連携演習を通して、多職種間における情報共有、コミュニケーション、チーム医療の重要性および救急救命士と看護師との視点や役割の違いについて理解を深める。

実習は班別に実施し、グループごとの実技評価を行うとともに、臨地実習（病院実習）前における総合的な実践力の向上を目的とする。

授業目標

1　救急車内における救急活動の流れおよび役割分担について理解することができる。
2　走行環境下における観察、情報共有および安全管理について理解することができる。
3　病院前救護に必要な基本的救急処置および搬送管理について実践することができる。
4　看護学生等との連携演習を通して、多職種間における情報共有、コミュニケーションおよびチーム医療について理解することができる。
5　救急救命士と看護師との役割や視点の違いについて理解し、救急現場に必要な判断力および対応力を身につけることができる。

DPとの関連		
	○	1. 公務員採用試験合格力 公務員採用試験に必要な基礎学力・論理的思考力・問題解決力
	◎	2. 人物評価対応力 面接・討論等で自己の考えを適切に表現し評価される対人・表現力
	◎	3. 公共分野理解・実践基礎力 行政・警察・消防・救急救命を横断的に理解し公共性の視点で判断する力
	◎	4. 医療・福祉・防災連携理解力 医療・福祉・防災の基礎知識を有し関係機関と連携して対応する力
	◎	5. 公務倫理・主体的成長力 社会奉仕の心と倫理観を基盤に主体的に学び続ける姿勢

授業の流れ（全体のスケジュール（回数）・学習内容・方法・備考　等）

回	学習内容と成果	方法	備考
1	救急車同乗実習の概要 ・実習の目的 ・安全管理 ・班活動	講義	
2	救急車内活動の基礎 ・車内環境 ・資器材確認 ・感染防止対策	講義 演習	

3	情報共有① ・活動開始時の情報共有 ・役割分担 ・傷病者情報確認	演習	
4	情報共有② ・申し送り ・医療機関への連絡 ・活動記録	演習	
5	観察活動① ・バイタルサイン測定 ・意識レベル評価 ・全身観察	演習	
6	観察活動② ・呼吸状態の観察 ・循環状態の観察 ・継続観察	演習	
7	搬送管理① ・担架搬送 ・車内収容 ・安全確認	実技	
8	搬送管理② ・走行時の傷病者管理 ・体位管理 ・搬送時の観察	実技	
9	一次救命処置① ・胸骨圧迫 ・AED の使用 ・役割分担	実技	
10	一次救命処置② ・換気管理 ・気道確保 ・安全管理	実技	
11	呼吸・循環管理① ・酸素投与 ・バッグバルブマスク換気 ・SpO_2測定	実技	
12	呼吸・循環管理② ・循環状態の評価 ・ショック観察 ・情報共有	演習	
13	外傷対応① ・外傷傷病者観察 ・止血法 ・固定法	実技	
14	外傷対応② ・頸椎保護 ・搬送管理 ・安全確認	実技	
15	救急活動シミュレーション① ・出場準備 ・現場活動 ・車内活動	実技 演習	

16	救急活動シミュレーション② ・観察 ・処置 ・情報共有	実技 演習	
17	多職種連携活動① ・役割分担 ・多職種連携 ・視点の違い	演習	
18	多職種連携活動② ・情報共有 ・コミュニケーション ・チーム医療	演習	
19	総合実習① ・看護学生との連携 ・傷病者対応 ・観察と判断	実技 演習	
20	総合実習② ・救急救命士と看護師の視点の違い ・申し送り ・連携活動	実技 演習	
21	総合評価実習① ・現場想定訓練 ・車内活動 ・安全管理	実技 演習	
22	総合評価実習② ・総合救急活動 ・チーム活動 ・実技評価	実技 演習	
23	救急車同乗実習の総括 ・実践活動の振り返り ・グループ評価 ・病院実習への課題整理	実技 演習	

受講上の注意
実技・演習時には、指定された実習着を着用し、安全管理に留意しながら積極的に授業へ参加すること。
評価方法
実技試験 60%　筆記試験 20%　　授業態度（演習態度、レポート提出含む）20%
使用するテキスト
『救急救命士標準テキスト』　へるす出版
参考文献
総務省消防庁「救急業務実施基準」　日本救急医学会関連資料　他